

教育指導担当

Google for Educationを導入した 新たなタブレット端末の活用について

報告内容

令和5年度から児童・生徒用のプラットフォームツールとして、Google for Educationを導入し、よりシームレスな学びの環境を構築することで、令和7年度以降の新たな港区GIGAスクール構想に向けた取組を行います。

1 背景

港区では、令和2年10月より児童・生徒1人1台のタブレット端末を配備しました。コロナ禍の学びを保障していくため、コミュニケーションツールとしてMicrosoft Teamsを活用した同時双方向型のオンライン授業を実施するとともに、授業支援ソフトとして「まなびポケット」を活用し、課題配信型のオンライン学習を行ってきました。令和3年度には双方向のオンライン授業と通常の対面授業を同時並行で行うハイブリッド型のオンライン授業を実現し、令和4年度には、港区立赤坂中学校がICT活用を推進する港区教育委員会研究パイロット校となり、上記ツールを活用した実践的な授業を進めてまいりました。

しかしながら、Microsoft Teamsについては、児童・生徒が直感的・感覚的に操作するには難しい面もあるツールである他、教員と児童・生徒が同じコミュニケーションツールを活用していることで、教員間の情報が教員の簡易な人為的ミスにより児童・生徒に周知されてしまうセキュリティリスクも可能性としてあります。

また、現行の授業支援ソフトの「まなびポケット」は、課題配信や課題の一斉投影、学級内のグループ学習の中での共同編集はできるため授業での活用率も高まっていますが、学級や学校全体でのリアルタイム共有やクラス全体でのクラウド上での共同編集はできないため、GIGAスクールの次のステージに児童・生徒の学びを進めていくことに課題があります。そのため、令和7年度以降の新たな港区GIGAスクール構想を検討していくにあたり、児童・生徒の安心かつ円滑な学習環境を整備していくことが必要となっています。

2 方針

令和5年度から新たな児童・生徒用の学習用プラットフォームとして「Google for Education」を導入します。

Google for Educationは、児童・生徒にとってMicrosoft Teamsよりも視覚的・感覚的に使いやすく大人数のクラウド上の共同編集を実現するなど、学校現場の協働的な学びに最適なプラットフォームツールです。

また、導入することで、教員間のやり取りはMicrosoft Teamsで行い、教員と児童・生徒とのやり取りはGoogle for Educationで行うことで、教員の人為的ミスによる情報漏洩を防ぐなどのセキュリティリスクが軽減します。

新たにプラットフォームを導入することは、教員の負担になることも想定されるため、令和5年度からの2年間は、区内でもICTを活用した授業の取組が進んでいる4校（白金小学校、麻布小学校、赤坂学園(令和5年4月開校)、お台場学園)で実証的にモデル実施をし、Google for Education導入のノウハウ等を他校に展開する形で令和7年度以降、全校展開を行います。

3 経費（予定）

Google for Educationにかかる経費は以下のとおりです。

年度	構築経費	保守経費	合計金額
令和5年度 (モデル校導入)	19,679(千円)	9,020(千円)	28,699(千円)
令和6年度 (モデル校導入)		13,530(千円)	13,530(千円)
令和7年度 (全校導入)	35,000(千円)	35,000(千円)	70,000(千円)

4 今後のスケジュール

- 令和5年3月 教育委員会報告
- 令和5年4月 契約締結
- 令和5年7月 各校での研修開始
- 令和4年9月 各校での実証開始